カヌーってすごい!!

東京アスリート認定選手

浅見明太選手

こども記者は2月9日、青梅市の多摩川でカヌーの浅見明太選手を取材しました。浅見選手は東京アスリート認定選手で、カヌースラロームJAPAN CUP2018第5戦（岩手）で3位に入賞しました。東京大学大学院に所属しており、文京区にもゆかりの選手です。

90秒で300メートルを川下り

こども記者の前でカヌーに乗ってみせる浅見明太選手

バランス感覚も

浅見選手はカヌーをこぐだけではなく、バランスボールの上にすわってきたえることもしているそうです。私もやってみたら、見た目よりむずかしかったのでびっくりしました。

カヌーをこいでいる様子を見た時、川の流れが速いと思ったら、このくらいはふつうだと話されたので、すごいなと思いました。ライフジャケットはいがいと軽く、身に着けてみると、おちても安全なようにたくさんくふうがされていました。（小5／寺島こと子）

下半身も鍛える

浅見選手にインタビューし、カヌーを見せてもらいました。1週間にトレーニングは6日。上半身だけではなく下半身のトレーニングもするそうです。

2016年のリオデジャネイロオリンピックで羽根田卓也選手が銅メダルを取ってから、カヌーにきょうみを持つ人が多くなったそうです。青梅市カヌー協会の倉庫にはカヌーの形のたながあり、そこにはトロフィーがいっぱい置いてありました。（小5／大迫輝）

興味がわいた

浅見選手に「何がきっかけでカヌーの道を歩もうと思ったのですか」と質問したところ、「小学生の時、近くのプールでカヌーの体験会が開かれて楽しいと感じたから」と答えてくれました。カヌーをする際の装備は、ジャケットとヘルメット、そしてパドル。カヌー1そうの値段は30万円ぐらいだとおっしゃっていました。冷たい水の中で練習するのは大変だと思いました。話を聞いているうちに、カヌーについてすごく興味を持ちました。

（中1／吉江龍飛）

慣れ、体幹が大切

カヌーは青梅などで多く体験会などが行われています。まだよく知らない人も多いと思うので、新聞などを通して、さまざまな人と交流していくことが大事だと思いました。

カヌーは慣れや体幹が大切でした。浅見選手はとても上手だったので、練習を小さいころからたくさんしてきたのでしょう。自分がやっている野球に、バランスや体幹をいかせると思いました。

（中1／正木伶旺）

地上でカヌーに乗ってみるこども記者

体力勝負の競技

多摩川は流れが緩いので、上流でターンなどの基本的な動きの練習をします。ターンは腰の力が強くなければできないものです。試合では300メートルくらいを1分半ほどで下るので、短時間でも相当体力が必要だと思いました。パドルやカヌーはカーボンで作られており、それほど重くはなく、パドルはこども記者たちも持つことができました。カヌーは水の上の競技で身近ではないかもしれませんが、実際に見せていただくことの大切さを感じました。

（大3／橋本薫＝編集サポーター）

東京アスリート認定選手（東京都事業）

東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際大会への出場が期待される東京の選手を認定し、支援する制度。強化費の補助などを行うとともに、都のホームページなどで競技活動を紹介することで、東京育ちのアスリートに対する関心を高めて、東京2020大会のムード盛り上げを目指しています。

文京区と深〜い関係

講道館柔道創始者・嘉納治五郎 ／ 1940年・幻の東京大会

文京ふるさと歴史館を2月22日に訪問しました。今回はミニ企画「文の京の五輪外伝」を見学しました。文京区は講道館、野球殿堂博物館、日本サッカーミュージアムがあり、この三つのスポーツに深く関係があります。文京区がこのように有名なスポーツの発祥に関わっていたことを知り、そうした場所を訪れたいと思いました。

（大3／橋本薫）

ミニ企画「文の京の五輪外伝」

「文の京の五輪外伝」の歴史を見るこども記者

道徳面で発展を

開催権を返上した1940年の幻の東京オリンピックに関わった嘉納治五郎は神戸出身でしたが、上京し東大に入学。体が弱くいじめられたため、柔術を始めました。その後、相手を敬うことを重視した「柔道」の創始者となりました。また、嘉納は英語が堪能で柔道を世界に広める活動をしたり、アジア人初の国際オリンピック委員会の委員になったりしました。私は空手道を習っていますが、相手を大切にする考え方は共通です。

64年の東京大会では小石川運動場や日本大学豊山高校などが練習会場になりました。文京区がスポーツにゆかりがあることを知ってもらえたら、外国人との交流も増えるのではないでしょうか。文京区は嘉納にゆかりがあり、東京2020大会では、スポーツの道徳面も発展してほしいと思いました。

（大3／橋本薫）

相手を敬う

私は「文の京の五輪外伝」を取材しました。じゅう道を生み出したかのう治五郎は、小さいころ体が弱かったそうです。そのため、ほかの子にいじめられていました。体をきたえるために治五郎はじゅうじゅつという習いごとを始め、自分流に工夫して、新たに講道館柔道をつくりました。文京シビックセンターの隣にある講道館の「講」の字は、礼から始まって礼で終わるという相手をうやまう気持ちを、「道」は道徳を表しています。

1940年に予定された東京オリンピックは中国と日本が戦争をしていて、オリンピックという平和の祭典ができなくなり、まぼろしになりました。

かのう治五郎や幻の東京オリンピックについて知ることができてうれしかったです。東京オリンピック・パラリンピックが楽しみです。

（小6／小貫美佳）

オリンピックを応援

ぼくは「文京ふるさとれきし館」に行きました。館内には江戸時代の町並みの模型やかっちゅうなどがおかれていました。館内のミニ企画としてオリンピックのしりょうがありました。文京区は日本で初めて、学校でサッカー、野球、柔道をしたそうです。1940年の東京オリンピックは日中戦争でできませんでした。東京オリンピックをおうえんしたいです。

（小5／大迫輝）

幼少期から勉強

文京ふるさと歴史館に行き、ミニ企画「文の京の五輪外伝」を見学しました。オリンピックや嘉納治五郎について学んだのは初めてでした。嘉納治五郎は、英語を幼少期から学び、海外とのコミュニケーションを取り、信頼を築いていきました。幼少期に行っていたことが大人になり、役に立つこともあるため、今は行うべきことをしっかり行うことが大切だと思いました。

（中1／正木伶旺）

河合さんのこんな話が印象に残りました。（1面からつづく）

「自分の弱さ、辛いと思う心の両方に向き合えるから強い」【中2／田口創冴】

「自分の弱さと向き合うことが強さの秘密」【小6／田口惺那】

「くやしいのは、がんばって負けたから。何もせずに負けてもくやしくはない」【小4／内田綾乃】

「試合などで悔し泣きをするのは自分がたくさん練習をしたから」【小5／大迫輝】

「見えないからこそ見えるものがある」【中1／久保壮太郎】

「夢への努力は今しかない。両目が見えなくても他は変わっていない」【小4／小澤一葉】

「水泳で世界一になり、次の夢は東京パラリンピックの成功」【小5／齋藤珀子】

「目が悪くてもからだは変化していないので自信をもって大会に行ける」【小4／阪田一起】

「メダルを取った時とミニかんこうをした時が楽しかった時です」【小4／豊島悠太】

仲間と一緒頑張れる

こども記者の取材を受けるヴェルテ選手

自転車競技ドイツ人金メダリスト

ヴェルテ選手

文京シビックセンターに昨年12月、姉妹都市、ドイツ・カイザースラウテルン市出身の自転車競技オリンピック金メダリスト、ミーリアム・ヴェルテ選手が来ました。

つらくても自分一人だけではない

ヴェルテ選手はつらかったことを「事故で仲間が車いす生活になったこと」、競技の楽しさを「練習はつらいけれど、仲間が一緒だからがんばれるし、楽しい」と答えてくれました。私は仲間は大切なのだな、と改めて思いました。友達と話すのは楽しいし、仲間とはげまし合いながらなら、つらくても自分一人だけではない、と考えればがんばれます。きびしい練習を一緒にやってきたからこそ、ヴェルテ選手自身もけがはあったのに、仲間のけがのことを一番に心配できたのでしょう。それは、とてもすばらしいことだと思います。（小6／水島希）

自転車で疾走するヴェルテ選手＝本人提供

区の姉妹都市から

ヴェルテ選手が一番印象に残っているのは、サー・ブラッドリー・マーク・ウィギンスというイギリス人選手です。オリンピックで金5個を含む計8個のメダルを取り、いつも親切でした。ヴェルテ選手の故郷カイザースラウテルン市は文京区の姉妹都市で、ドイツ南西部にあり、面積は文京区の12倍なのに対して、人口は半分です。みどころは2000年に開園した「日本庭園」の美しさだそうです。17年には、「文京庵」という食事処が完成しました。

（中1／久保壮太郎）

時速40キロ以上を軽々と

ヴェルテ選手はオリンピックで2回メダルをとっていて、2016年リオデジャネイロ大会にもドイツ代表として出場しています。競技用自転車を体験すると、ふつうの自転車よりサドルが高かったです。ハンドルを持つ場所などの決まりはありません。ぼくは時速32キロしか出せなかったけど、ヴェルテ選手は軽々と40キロ以上出していました。13歳から自転車を始めたヴェルテ選手は、カーブをまがる時の圧力が好きだそうです。すごく楽しいスポーツだとわかりました。

（小5／大迫輝）

金メダルはごほうび

ヴェルテさんは初め陸上競技をやっていましたが、自転車競技に切り替えたのは、お父さんのえいきょうでした。毎日練習しながらの生活は、とてもつらかったそうです。こしがいたくて、朝起きられない時でも、自転車の練習をするそうです。そんな中でがんばって練習してきたごほうびが金メダルだと言っていました。選手を引退したヴェルテさんは、けいさつ官として働いています。

（小6／小貫美佳）